

心臓病 9歳で逝った朝陽ちゃん

命の物語 伝えたい

重い心臓病で昨年1月に9歳で亡くなった守井朝陽ちゃん(守口市)との交流を描いた本を出版した、豊中市新千里北町の主婦前田妙子さん(51)が11日、「多くの子どもたちの励みになれば」と、同市教委に107冊を寄贈した。市立図書館や公民館などに置かれる。

豊中の交流描いた著書 市教委に107冊 前田さん

「朝陽 いっぱいのありがとう」(幻冬舎ルネッサンス刊・1470円)。

「朝陽ちゃんに勇気づけられた。」

病院ボランティアとして絵本の読み聞かせをするなど、朝陽ちゃんを5年半見守った前田さん

「朝陽ちゃんに勇気づけられた。」

紙が届き、寄贈を思い立ったという。

「朝陽ちゃんに勇気づけられた。」

ほかに、本を読んだ人から

手紙やメールで反響が寄せられるといい、前田さんは「朝陽の頑張りを文字にしてよかった」と喜ぶ。

この日は、朝陽ちゃんの誕生日。豊中市役所を訪れた前田さんは山元行博・市教育長に本と

目録を渡し、「朝陽は病気で明も暗もなかった。本を読んで、誰でも幸せになれる」と話す。山元教育長は「つらい体験が明るく紹介されており、涙ながらに読んだ。子どもたちが、これからの人生や命について考えるきっかけになれば」と話し、前田さんに感謝状を贈った。



山元教育長に本を手渡す前田さん(右、豊中市役所で)